

## 教科研究主題

「主体的に表現する生徒の育成～「根拠を明確にして表現すること」の学習を通して～」

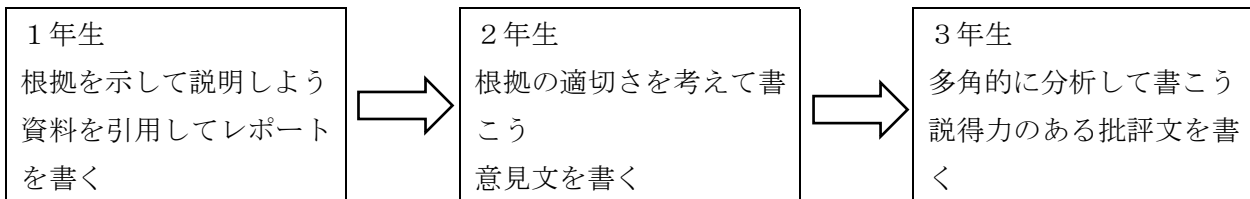
1 単元名 根拠の適切さを考えて意見文を書こう

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、はっきりした根拠を基に、説得力のある意見文を書くことがねらいである。意見文とは、ある事柄や問題などについて、根拠を示しながら自分の考えを筋道立てて述べた文章のことである。体験などを通じて、自分の心の中で感じ取ったり思ったりしたことを表す感想文にとどまってしまう生徒には、客観性の高い信頼できる情報やデータを示したり、複数の根拠を示したりすること等を助言していく。また、意見にあたる部分と、それを支える根拠となる部分を分けて書くように指導していく。明確な意見文にするためには、伝えたい意見が明確であることはもちろんのこと、意見とそれを支える根拠とのつながりを明確にすることが重要である。読み手の立場に立ち、どのような順で書けばわかりやすく伝わるのか、構成の工夫も考えさせたい。意見文という文種は、学校生活はもちろん、日常生活の中でも触れることが多いが、「自分がそう思う」というだけでは説得力のある意見文とは言えない。意見の根拠を吟味する習慣が、今後の学習や日常生活につながることに気づかせたい。

(2) 指導内容の系統性



1年生「根拠を示して説明しよう」では、根拠を示すことの意義と根拠の表し方を学習した。「資料を引用してレポートを書く」では、レポートの書き方を中心に学習し、自ら課題を決めレポート作成を行った。レポート作成の中で生徒たちは、実際に自分で実験したり体験を述べたりすることで根拠を示した。インターネットで集めた資料の引用の仕方についても学習した。小説「星の花が降るころに」では、続編を創作するために、話の流れを捉えたり、表現方法を参考にしたりして、本編に根拠を求めて読む活動を行った。2年生「多様な方法で情報を集めよう」では、校外学習のガイドブック作りにあたって、情報収集の仕方を学習した。また、複数の情報源で情報を集めることで、正確性を確かめられることを学習している。

これまでの学習を踏まえて本単元では、今年4月に報道された「人口戦略会議」の「消滅の可能性」のニュース記事を取り上げ、「2050年に長南町が消滅しないようにするためにはどうすべきか」をテーマに意見文を書く活動を行う。情報を集め、自分の伝えたい意見に対して適切な根拠であるかどうかを分析し、説得力のある文章を書ける生徒の育成を目指す。

### 3 単元に対する生徒の実態

(1) 調査結果 調査人数 18名 調査実施日 7月17日

質問		生徒の回答	
1	何かを調べるときに、あなたならどの手段（メディア）を使って情報収集しますか。	・（紙に印刷されている）本 ・インターネット（タブレット） ・人に聞く（インタビュー）	0名 18名 0名
2	情報を発信するときに、あなたならどの手段（メディア）を使いたいですか。	・手書きの作文・レポート ・文章作成ソフト（タブレット） ・スピーチ	1名 17名 0名
3	意見文を書くときに困ることは何ですか。（複数回答可）	・説得力がない ・構成の仕方がわからない ・漢字が書けない ・自分の意見がもてない ・指定字数まで書けない ・課題が理解できない ・原稿用紙の使い方がわからない その他 ・言葉に表せない。（語彙力） ・話し言葉になる。 ・用紙の大きさ。 ・やるきがない。	12名 7名 5名 5名 4名 4名 3名 3名 ・用紙の大きさ。 ・やるきがない。

#### 質問3

意見文を書くときに困ること

1 漢字が書けない    2 原稿用紙の使い方がわからない    3 課題が理解できない  
4 自分の考えがもてない    5 構成の仕方がわからない    6 説得力がない  
7 指定字数まで書けない    8 その他

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	○					/		○		○	○			○					
2		○				/						○							○
3	○			○		/						○							○
4						/			○			○	○			○			○
5						/	○		○	○	○	○	○						○
6	○		○		○	/			○	○		○	○	○	○			○	○
7						/			○			○	○					○	
8		○		○		/								○	○			○	○

#### (2) 考察

本学級は、落ち着いてじっくりと課題に取り組む生徒が多いが、文章を書くことを苦手としている生徒も多い。2年生になってから授業開始後の5分間に毎回課題を変えた小作文を行っている。その中で意見文を書くときに、どのような困り感があるかをアンケートで調査したところ、最も多い回答として「文章に説得力がない」ということが挙げられた。これは、自分の思いや考えが先行してしまい、根拠を示すことが疎かになってしまっているからではないかと考えた。根拠の適切さを吟味する方法を指導し、意見文に活かせるようにしたい。また、「文章の構成の仕方がわからない」という生徒も「説得力がない」に次いで多かった。意見文の書き方モデルを示し、どのように構成されているのかを分析する時間を取る必要がある。さらに、モデルを複数示すことで書き出し方や主張の述べ方にはバリエーション

があることを気づかせたい。生徒 I、M、S は、意見文の内容から書き方までの困り感を挙げているが、実力はあるものの自信が持てないことに起因していると考え。生徒同士が文章の交流を通して、自己の文章を調整できるような場を設けたい。多くの困り感をもつ生徒 L に対しては、個別にどこまで理解できたかを確認して助言していく必要がある。

#### 4 単元の目標

(1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

【知識及び技能】

(2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

#### 5 指導計画（6時間扱い 本時は4時間目）

実践モデル過程	時	学習内容	観 点 別 評 価 規 準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見いだす	1	○単元の目標と流れを確認し、学習の見通しをもつ。	○意見文を書く時の視点について理解している。		○これまでの生活を振り返り、関心のある事柄について粘り強く見つけようとしている。
	1	○根拠の適切さを吟味したり、意見に説得力をもたせたりする方法を学ぶ。	○意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係について理解している。		○これまでの学習を活かし、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
自分で取り組む	1	○情報を集め、整理して、根拠となる内容について分析する。 ○自分の意見に合う構成の型を考え、構成メモを作る。	○構成の型とその効果について、理解している。	○根拠となる事実を具体的に書くことができる。 ○表現の効果を考えて、構成を工夫することができる。	○根拠の適切さを考え、意見を明確に伝えるための順序について粘り強く考えることができる。
	1 (本時)	○構成メモを読み合い、意見に対する反論を考える。	○構成の中での反論とその効果について理解している。	○自分の考えが伝わる文章になるように、工夫して書くことができる。	○自分の考えが伝わる意見文となるよう根拠の適切さを考えて書こうとしている。

	1	○立場と根拠の関係や読み手の立場に立って表現を工夫し、意見文を書きあげる。		○意見文を書く時の視点について文章で表現することができる。	○自分の考えが伝わる意見文となるよう根拠の適切さを考えて書こうとしている。
まとめあげる	1	○意見文を交流し、単元のまとめと振り返りをする。		○意見文を書く時の視点について文章で表現することができる。	○この学習を今後どのように活かしていきたいか考えることができる。

## 6 本時の指導

### (1) 目標

自分の考えが伝わる文章になるように、表現や構成を工夫することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

### (2) 教科研究仮説との関連

#### 【教科研究仮説】

- ①見通しをもったり、振り返ったりする活動を計画的に取り入れれば、生徒は主体的に学習するだろう。
- ②一人一人が自分の考えを明確にするために、言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成する場や互いに学び合う場を設定すれば、主体的に学び表現する生徒が育つだろう。

①に関して、学習計画表を活用することによって、学習課題を明確にし、この授業で何を学ぶのか、何を身に付ければよいのかを把握する習慣をつけさせている。

②に関して、自分の意見文を他の生徒に読んでもらうことで、考えがより伝わるように工夫したり、他の文章を自分の意見文の参考にしたりする機会にしたい。

### (3) 展開

過程	形態 時配	学習活動と内容	○指導上の留意点・支援 ◎評価※研究との関連	教材・資料
見 い だ す	5分 (一斉)	1 前時の振り返りと本時の見通しをもつ。	○学習計画表を配付し、これまでの学習を確認させる。	学習計画表
		構成メモを読んで反論を考えよう。		
自 分 で 取 り 組 む	10分 (一斉)	2 反論の効果と構成の中での活かし方を考える。 ・なぜ反論があるといいのか。 →対立意見への配慮、客観性の保証	○意見文の条件を確認する。 ◎構成の中での反論とその効果について理解しているか。 (観察・ノート)	

	20分 (グループ)	3 班ごとにアップされた構成メモを読んで、反論カードに疑問点や反対意見を書いて送る。 ・反論の観点(反対の例:実現の可能性が低い、効果が薄い 理由の例:莫大な金額がかかる、全員が取り組むとは限らない)	・構成メモができていない生徒に対し、情報整理と文章構成の仕方を指導する。(T2) ○根拠、根拠と意見をつなぐ考えは適切かを評価する。 ○「思考の視覚化」の「軸で整理して評価する」を参考に、意見の弱いところを考えるように指導する。	タブレット
広げ深める	10分 (個別)	4 反論カードを読んで反論に対する意見を書く。 ・反論に対する意見の書き方を確認する。(反論は必ず入れなければならないわけではないので、乗り越えられない反論は書かない。)	◎自分の考えが伝わる文章になるように、表現や構成を工夫して書くことができるか。(観察・ワークシート)	タブレット
まとめあげる	5分 (一斉)	5 本時の学習の振り返りをする。 ・進捗状態を確認して、学習計画表に振り返りを記入する。	※本時の学習について振り返り、進捗状態を確認して、学習の調整の意識をもたせる。 ○次回は、今回の構成メモをもとに意見文を文章化することを伝える。	学習計画表

(4) 板書計画

<p>反論に対する意見 たしかに(反論)というの もわかるが、(意見) ↓反対意見の解決策 ↓反論のポイント以上に自分の 意見がよいという考え方</p>	<p>③ 受け取った反論に対する 自分の意見を紫のカードに 書いて構成メモに付け加える</p>	<p>② 青のカードに疑問点や反論 を書いて送る</p>	<p>① グループで構成メモを 回し読みする</p>	<p>なぜ反論があるといいのか 反対派への配慮 客観的な意見文になる ↓説得力が増す</p>	<p>根拠の適切さを考えて 意見文を書こう</p>	<p>構成メモを読んで反論を書こう。</p>
--	---	----------------------------------	--------------------------------	--	-------------------------------	------------------------